

福井県立武道館(1/2)

が武道！老いも若きも一緒に。

所在地	福井市三ツ屋町8-1-1		
設置年月日	平成元年6月1日		
施設の種類	スポーツ施設	施設管理主体	県
設置の目的	武道の振興を図り、県民の心身の健全な発達に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上3階、延13,987㎡ 柔道、剣道、弓道、相撲のそれぞれ独立した専用公式試合場を有し、加えて多種目競技場は空手、なぎなた、銃剣道等の公式試合場として使用できる。		
職員数	館長(非常勤)1名、正職員7名、アルバイト1名 計9名		

利用状況等

	H14	H15	H16
利用者数(人)	97,852	99,010	105,403
武道学園受講者数(人)	986	961	990
大会・審査会使用回数(回)	224	215	183

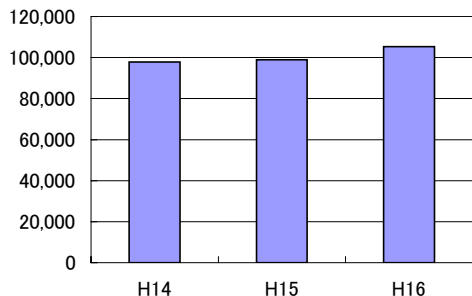
	H14	H15	H16
利用者数(人)	97,852	99,010	105,403

	H14	H15	H16
武道学園受講者数(人)	986	961	990

利用者負担(利用料金)等

使用料	学生等(専用せず)	60円
	一般(専用せず)	140円
	剣道大連場(専用/一般)	18,000円

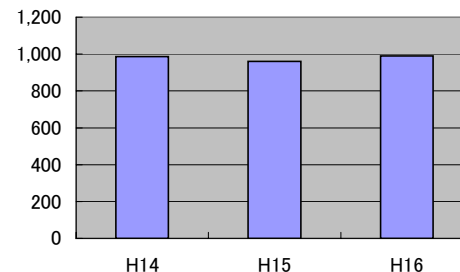
利用者数(人)



16年度の特徴について

事業実績	<p>183回の大会・審査会の実施など、年間約10万人(前年比0.6%増)の利用者がありました。武道学園は16年度には990人(前期478人、後期512人)の受講があり、県民の健康増進と青少年の健全育成に寄与しました。</p> <p>研修事業を実施(指導者資質向上研修会(16年9月柔道、10月少林寺拳法、10月空手道)160人、地域社会武道指導者研修会(16年6月弓道、7月なぎた)103人、地方青少年武道練成大会228人(16年8月柔道、9月剣道)の参加(16年度実績)、指導者育成、青少年の育成、競技力向上に寄与しました。</p> <p>機関紙「武道」の発行(16年8月)や武道館のホームページ更新により、県民に武道を知ってもらうとともに、館内の情報コーナーにより、武道および武道館に関する情報を提供しました。</p> <p>県内の武道人口を調査し、小学生・中学生・高校生・一般の各競技の武道愛好家を把握した(17年3月)。</p> <p>武道館運営委員会(年2回 16年5月、17年2月)を開催し、武道関係団体からの意見を聞き、武道館の運営改善に役立てるとともに、公立武道館協議会を通じて、県内公立武道館との連携を図り、武道振興のための支援を行いました。</p> <p>利用案内パンフレットの作成、館内での施設利用状況や利用方法の掲示、アンケート等の実施を行い、より利用しやすく、ニーズにあった施設にするための改善につとめました。</p>
------	---

武道学園受講者数(人)



利用状況の推移	<p>日本でも指折りの総合的な武道館として、全国大会や北信越大会など大規模な大会から、練習の場として個人利用まで、年間約10万人、開館以来延べ143万人が利用しています。</p> <p>特に16年度は、対前年度比で6%の伸びとなりました。</p> <p>また、県外の利用者も年々増加しており、県外の学校・武道団体等の合宿も多数行われ福井県のイメージアップに役立っています。</p>
---------	--



福井県立武道館(2/2)

行政コスト計算書(平成16年度) (単位 千円)

		総額	構成比
人にかかるコスト	人件費	74,296	33.7%
	退職給与引当金繰入	▲ 1,968	-0.9%
	計	72,328	32.8%
物にかかるコスト	物件費	52,353	23.7%
	維持補修費	3,592	1.6%
	減価償却費	92,190	41.8%
	計	148,135	67.1%
その他	公債費(利子)	0	0.0%
	その他	22	0.1%
	計	22	0.1%
合計		220,485	100.0%

バランスシート(平成17年3月31日現在) (単位 千円)

借方		貸方	
資産		負債	
有形固定資産	4,920,202	固定負債	55,020
投資等	0	流動負債	0
流動資産	0	正味資産	4,865,182
計	4,920,202	計	4,920,202

施設の特徴

弓道場・相撲場は県内には少なく、それら競技の大規模な大会を開催するには、当施設は必要不可欠です。さらに、当施設は施設・備品が充実しており、武道関連の大会運営が容易です。このような点で、県立武道館は、本県の武道振興の拠点施設となっています。

今後の課題

武道学園(柔道・剣道・弓道・空手道・銃剣道・なぎなた・相撲)は、武道を通じて県民の健康増進や青少年の健全育成はもとより、日本文化・伝統を体験できる場、心の教育の場として貴重な存在となっています。

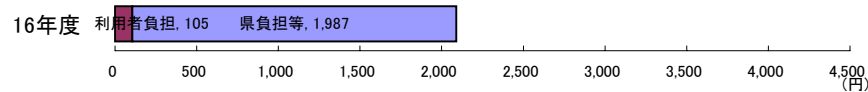
指導者資質向上研修会、地方青少年武道練成大会などで中央の講師を招き、県内の武道の普及振興に寄与しています。

(単位 千円)

収入	利用料等収入	11,064	5.0%
	その他収入	532	0.2%
	一般財源	208,889	94.7%

利用料等収入計	11,064,000 円
利用者1人あたり平均利用料	105 円
利用者1人あたりコスト	2,092 円

利用者1人あたりのコスト負担の状況



バランスシート、行政コスト計算書の特色

施設の設置が平成元年と比較的新しいため、減価償却がコストの約4割を占めています。

今後の事業方針

休館日の柔軟な対応、開館時間の変更など、県民のニーズに合った利用しやすい施設づくりを目指します。

アンケート等により、利用者の意見を吸収し取り入れられる体制をさらに充実させ、県民の利便性の向上をはかります。

取組み内容

県の武道の情報発信基地として、武道に関する情報収集・提供、武道に関する調査・研究をすることにより、県民に武道を理解してもらうとともに武道人口増加を図ります。

各武道団体と連携し、武道団体のネットワークづくりや武道に関する相談などへの対応体制を充実していきます。

武道のホームページをさらに充実し、県民が更に武道に関心をもってもらえる内容にしていきます。

教室指導者協議会を開催し、武道教室の改善に努めます。